



中国西南民族史

3. 隋唐の雲南経営と西南民族①



南北朝期の中原王朝と南中

- 南朝各朝(東晋・宋・南齊・梁・陳)は代々寧州刺史を任命したが、ほとんどは「遥領」のみ

6c前半 梁と北魏の間で益州の争奪戦

537 梁武帝は武陵王蕭紀を都督・益州刺史とする
徐文盛を寧州刺史とする

兩名の働きで巴蜀・南中はかなりの程度安定



西南が北朝支配下に

548 侯景の乱勃発

徐文盛は寧州で数万の兵を召募して東下、
湖北で侯景の将任約を大破、侯景の本軍をも破る

552 蕭紀が成都で帝を称す

553 西魏が出兵して益州を攻める(梁側が要請)

- 大將軍尉遲迥(うっちけい)、成都を包囲の末降し、
尽く巴蜀の地を奪取
- 西魏治下の甘肅に寧州があったため、
南中の寧州を南寧州と改める



北周・隋による四川平定(580)

557 宇文泰, 周を建国, 爨瓚を(南)寧州刺史とする
(それまでと違い現地住民の首領を刺史に任命
→隋唐の「羈縻州県」の端を開く)

570 北周, 越巂を平定後, 西寧州を設置

580 梁睿(りょうえい)が益州総管となり, 四川を平定

「劍南尽く平ぎ, 威は西川に震い, 夷獠帰附す。
唯だ南寧酋帥爨震, 遠を恃みて賓せず。」

(『隋書』梁睿伝)



四川平定後の梁睿の建議

■ 『隋書』梁睿伝：

- 「戸口殷衆，金寶富饒，二河有駿馬、明珠，益寧出鹽井、犀角。」→物産の豊かな地であるという認識
- 「漢代開此，本爲討越之計。伐陳之日，復是一機，以此商量。」
→華北を統一した隋朝が，南朝の陳を攻撃するための迂回路として雲南を使うことを想定



- 楊堅（隋文帝）はその意を是としながら「以天下初定，恐民心不安」として採用しなかったが，
のちの史萬歳の遠征の根拠となる



南寧州總管府の設置

- 「土民鬪瓚遂竊據一方，國家遙授刺史，其子震相承至今。而震臣礼多虧，貢賦不入」(梁睿伝)

584(頃) 韋世冲を南寧州總管に任命

→武力を用いず，平和的に南中諸部を慰撫する

- 鬪地に南寧州總管府を置く
- 旧朱提郡→恭州，建寧郡・興古郡→昆州
犍為郡→協州 (雲南郡は昆州に帰属)
→「州・郡・県」制を「州・県」制に改める
- 現地の酋長大姓を刺史に任命(鬪翫→昆州刺史)



劉噲之らの遠征(595-596頃)

- 大將軍劉噲之らを派遣, 西爨を討つ。
 - 楊武通を行軍総管とし, 蜀王楊秀に命じて監軍を派遣
 - 「武通, 弘農華陰人, 性果烈, 善馳射。数以行軍総管討西南夷, 每有功, 封白水郡公, 拜左武衛大將軍。」
(『隋書』卷53楊武通伝)
- この時期に西南遠征がたびたび行われていたことがうかがえる
- 全国統一後, 西南に力を振り向ける余裕



史萬歳の遠征(597)

- 「其後南寧夷爨翫(がん)来降, 拜昆州刺史, 既而復叛。乃以左領軍將軍史萬歳為行軍總管, 帥衆擊之」(『資治通鑑』)
 - 清溪関路より入り, 洱海地区を經由して滇池地区へ
→ 爨翫をとらえる
→ 長安へ連行するよう命じられるも, 翫の賄を受け釈放
(のち発覚して史萬歳は処分される)



爨氏の制圧

- 爨翫は翌年(598)ふたたび反す



隋朝は再度出兵,

爨翫は大軍をおそれて降伏, 朝廷に連行された後処刑され, 子供たちは奴隷とされる



南寧地区の放棄

- 文帝は西南経営を重視し、たびたび出兵して成果を上げた

→ 派遣された地方官の横暴などが原因で反抗が繰り返され、統治が安定しない



- 煬帝の大業年間には**恭州・協州・昆州など南寧地区(爨氏の勢力圏)の州を次々に廃止**
(今の四川南部・貴州など、爨氏の勢力が及ばない地区の経営は継続される)



中国西南民族史

3. 隋唐の雲南経営と西南民族②



唐初の雲南経営

618 唐朝成立

- 爨翫の**子爨宏達の自由を回復**, 昆州刺史に任命し父の遺骸を持って故郷に帰らせる
- 益州刺史段綸が**兪大施**を派遣して南寧地区を招撫させる



620 爨地の諸部はすべて唐朝に帰順
同年, **南寧州総管府**を設置

621 州治中吉弘緯を南寧に派遣して爨部との連携を強化する



南寧州都督府の設置

- 爨地に派遣された官吏の貪婪暴虐により現地住民が被害, 反乱を起こすものも



- 雋州都督府長史韋仁寿を**檢校南寧都督**とし, 年一回南寧地区を巡視させる

「蛮・夷豪帥望風歸附, 来見仁寿」

624 **南寧州総管府を都督府に改め**, 爨宏達を都督に任命, 雋州都督府の政令に従わせる

- 翌年 南寧州都督府を本郡味県(曲靖)に移す。



「羈縻都督府」としての南寧州

634 南寧州を郎州に改める

716 ふたたび南寧州都督府に戻す

- 南寧州都督府は「**羈縻都督府**」
 - 戎州都督府(宜賓, 632年設置)の管轄下にある
 - 武徳・貞観年間: 爨宏達が南寧州都督
 - 開元年間: 宏達の子爨歸王→爨氏の滅亡まで続く
 - 爨氏は唐朝に(名目上)帰順することによって命脈を保った



雲南西部への進出

621 安撫大使李英らを西洱河(洱海)地区に派遣,
姚州を設置(今の姚安付近)

- 12月 西洱河地区の昆明蛮「遣使朝貢, 因求内附, 自是每歲不絶。」(『唐会要』卷98)
- 南寧州都督(韋仁寿)が兵500人を率いて遠征「循西洱河, 開地数千里, 称詔置七州十五県, 酋豪皆来賓見, 即授以牧宰, 咸令簡嚴, 人人安悦。」(『新唐書』韋仁寿伝)



梁建方の遠征(648)

- 「松外蛮」: 四川の塩辺県およびその西南に分布
 - 雋州都督府の管轄下
 - 貞観年間, しばしば唐朝と衝突

645 雋州都督 劉伯英の上疏「松外諸蛮, 率暫附
亟叛, 請擊之, 西洱河天竺道可通也。」

(『新唐書』南蛮伝下)

→松外蛮の鎮圧と雲南～インドルート の開拓

648 右武侯將軍梁建方を派遣



梁建方の遠征(648)

- 松外蛮首領双舎らを倒し, その地に牢州を設置, 松外・尋声・林開三県を管轄, 各部の首領を県令に任じる
- 「奇兵」を派遣して西洱河を攻略, 首領楊盛らを投降させる

同年 西洱河首領楊同外・東洱河首領楊斂・松外首領蒙羽らが長安にいたり朝拝, それぞれ官職を授けられる



成都

渝州

戎州

雋州

播州

曲州

松外蛮

西洱河

姚州

南寧州

永昌

昆州

雲南

安寧

晉寧

蒙舍州

步頭



麩州都督府の設置

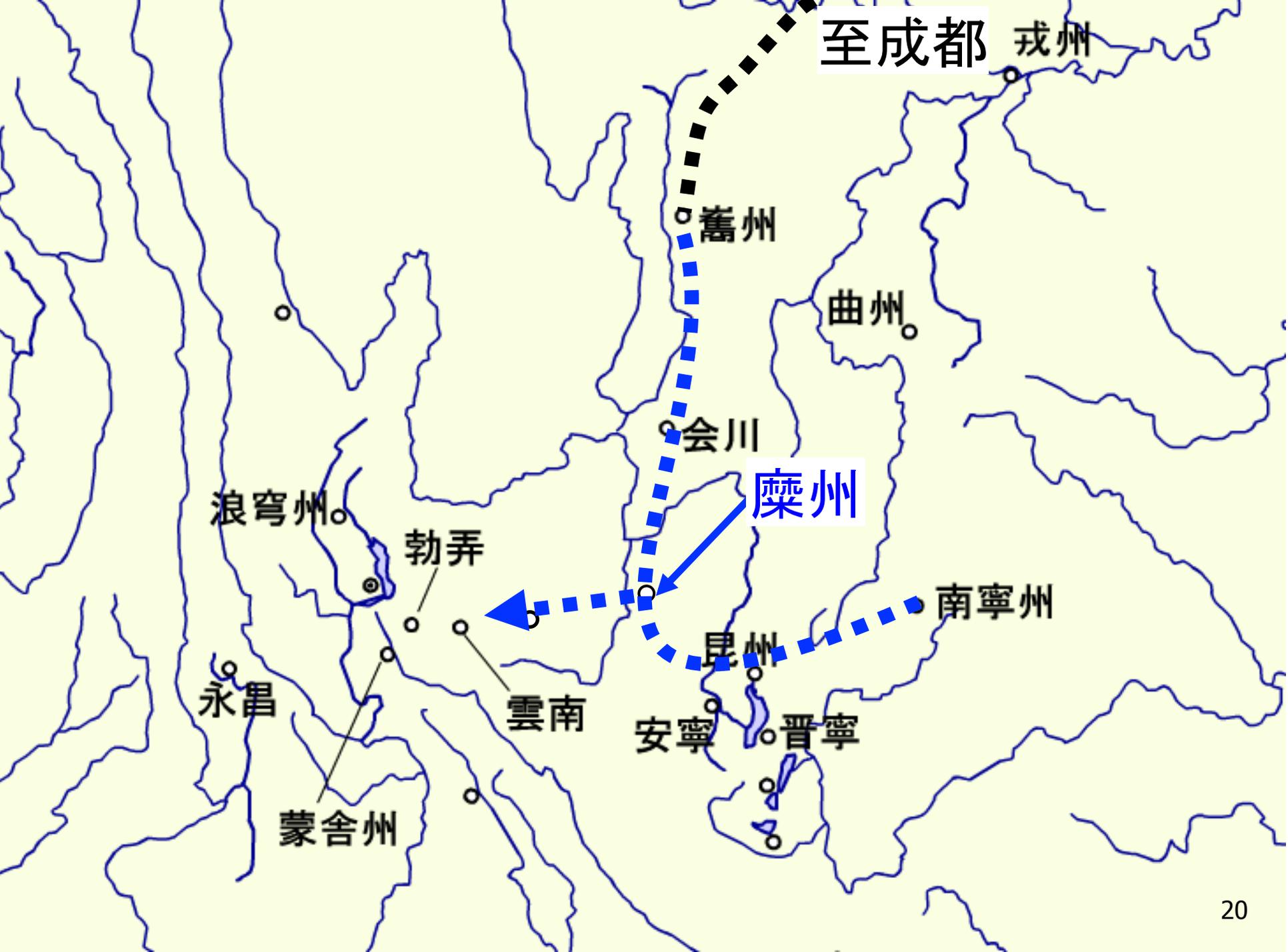
649 麩州都督府(今の元謀)を設置,
嵩州都督府以南,郎州都督府以西を管轄



当地の白水蛮・勃弄蛮・弄棟蛮等の反抗を招く



651 左領將軍趙孝祖を派遣,白水蛮を征討
翌年 余勢を駆って西洱河地区へ進軍,
小勃弄酋長歿盛・大勃弄酋長楊承顛らを破る



至成都 戎州

舊州

曲州

会川

麩州

浪穹州

勃弄

南寧州

永昌

雲南

昆州

安寧

晋寧

蒙舍州



趙孝祖の遠征(651)

- 「夏, 四月, 趙孝祖大破西南蛮, 斬小勃弄酋長歿盛, 擒大勃弄酋長楊承顛。自余皆屯聚保險, 大者有衆数万, 小者数千人, 孝祖皆破降之, 西南蛮遂定。」

656 西洱河大首領楊棟附顛・和蛮大首領王羅祁・

郎梨盤昆四州大首領王伽衝らが唐に帰附
唐初以来の西南進出が一段落する



高祖～高宗期の雲南経営

- 当初の目的地は滇池地区
→ 爨弘達帰附の後, おもに洱海地区へ
- 洱海地区に関する知識の増加
→ 梁建方の遠征時の記録と思われるものが
各史書(『通典』・『新唐書』・『資治通鑑』等)に
残されている
→ 「西洱河風土記」(←方国瑜による命名)